

電気で最も気になるのが「感電」ではないでしょうか。

感電とは、電流が人体に流れて衝撃を受けることです。冬場にドアノブに触れたときや、衣類を脱いだときに「パチッ」となる静電気も感電の一種です。

感電

感電の危険度を決めるポイントは3つです。

- ・ 流れる電流の大きさ
- ・ 電流の流れた時間
- ・ 電流が流れた経路



これらによって人体に及ぼす危険度が変わります。

感電で重要なのは、"電圧の大きさ"ではなく"流れる電流の大きさ"なのです。

(電圧がかかっても、電流が流れなければ感電しません)

従って、ほんの小さな電圧でも人は死ぬ可能性があります。

よく言われているのが、42Vの電圧、通称『死にボルト』です。

身体の抵抗は、500Ωほどと言われています。

濡れると身体を流れる電流が多くなり

危険度がまします。また筋肉がうまく

動かなくなる不随電流は20mAほどと

言われていて、家庭用100Vでも自力で

脱出できなくなるような感電が起こり

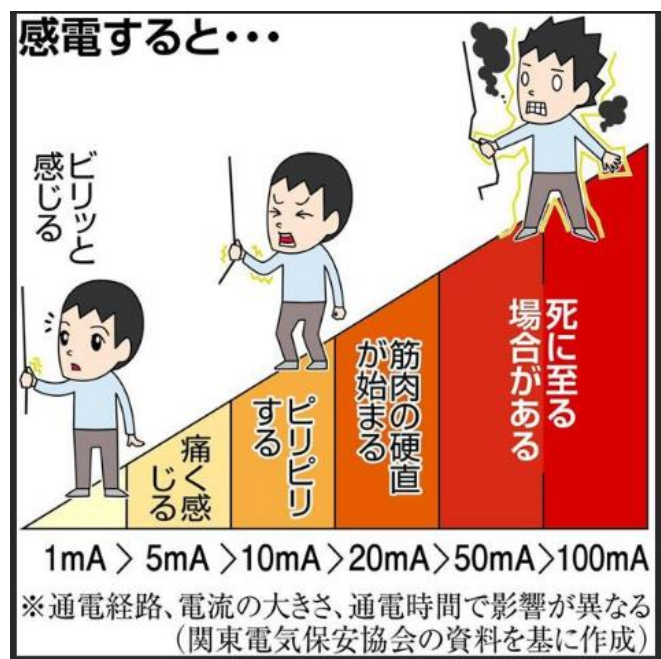
電流であっても長時間身体に流れると

重大な障害や命の危険があります。

50mAを超える電流が心臓を流れると、

心室細動を起こし、死に至る可能性が

かなり高くなります。



「電気管理技術者は、常時（24時間）対応しています、電気事故等の発生時は、すぐに連絡をお願い致します。」